

参考:「JALスカラシッププログラム」の経緯と実績

1. 発足に至る経緯

1970年代初め、高度成長期の日本に対する批判がアジア各地で高まり、日本製品排斥運動や日本批判の嵐が吹き荒れていた。その中で、田中角栄元首相が1974年にJAL特別便でアセアン諸国を訪問した際、タイやインドネシアで学生を中心とする反日デモに遭遇した。これを知った当時のJAL社長（朝田静夫）は、JALが乗り入れているこの地域の若者に実際の日本の姿を見てもらえば相互理解を促進することができると考え、日本とアジアの友好のために、1975年「JALスカラシッププログラム」を発足させた。その後2度にわたるオイルショックなど、厳しい経営状況の時期もあったが、毎年継続実施し、2005年には30周年を迎える。

2. 発足後昨年までの実施年度と対象国・地域および参加者数

1975年より毎年1回実施し（但し、1976年のみ春・夏2回実施）、2005年で32回目となった。初年度は香港・インドネシア・マレーシア・フィリピン・シンガポールから30名を招待した。その後順次対象とする国・地域を拡大していったが、1992年からアジア・オセアニアに絞ることとした。昨年までの総参加者数は1,214名にのぼる。

【2004年までの国・地域別参加者数、および2005年度参加予定者数】

	期間	累計	2005年度参加予定者数
香港	‘ 75 - ‘ 97	106名	-
フィリピン	‘ 75	131名	3名
シンガポ - ル	‘ 75	132名	3名
マレーシア	‘ 75	131名	3名
インドネシア	‘ 75	132名	3名
タイ	‘ 76	128名	3名
米国	‘ 77 - ‘ 91	63名	-
ブラジル	‘ 80 - ‘ 90	24名	-
韓国	‘ 81	93名	4名
オーストラリア	‘ 83	60名	3名
ニュージーランド	‘ 83	37名	2名
中国	‘ 85	94名	6名
台湾	‘ 91	46名	3名
ベトナム	‘ 92	37名	3名
総計		1,214名	36名

注) 香港からの参加者は、98年から中国へ計上